

③ 安政の大地震と大津波

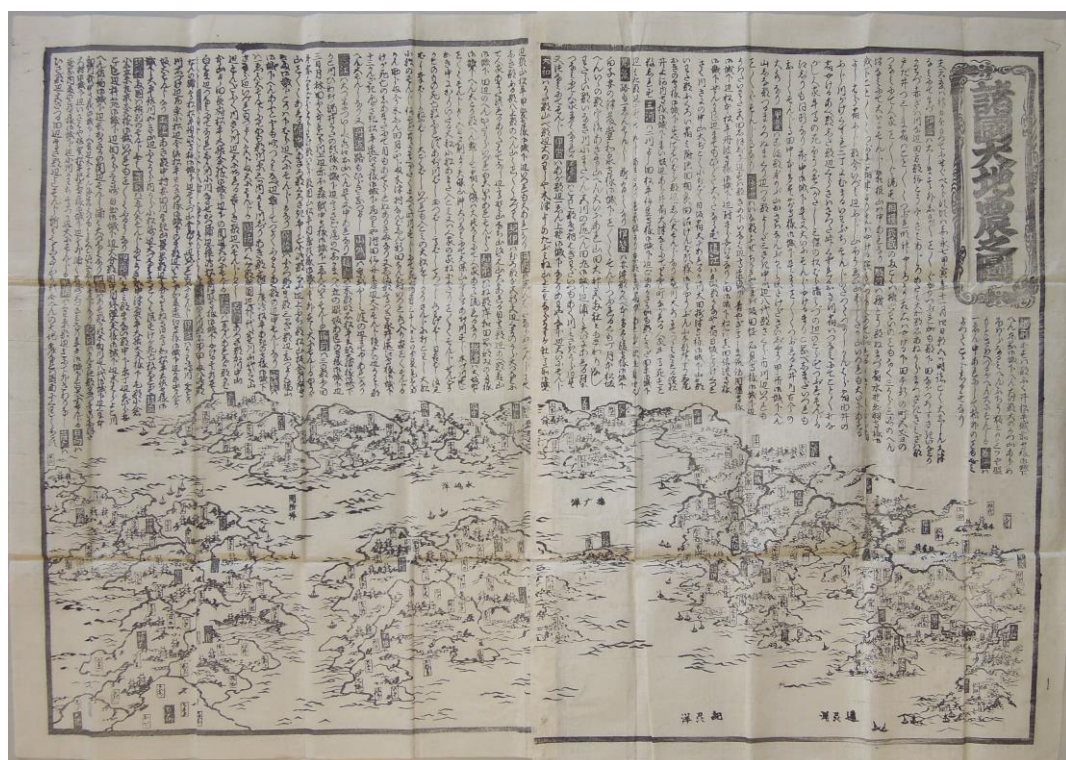
ペリーが来航して対外関係が大きく揺らいだ時期、日本国内は相次いで大地震に見舞われました。嘉永7年は度重なる大地震を受け、11月27日に「安政」と改元されました。そのため同年を含め、この時期の地震を総称して「安政の大地震」とも呼びます。

嘉永7(1854)年6月15日 安政伊賀地震 震源は三重県伊賀市付近 マグニチュード7.3 (最大震度7) 木津川断層帯による内陸型地震 伊賀上野・四日市・奈良で大きな被害	嘉永7(1854)年11月5日 安政南海地震 震源は紀伊水道～四国沖 マグニチュード8.4 (最大震度7) 中部・近畿・四国・九州地方に大きな被害 太平洋岸に大津波
嘉永7(1854)年11月4日 安政東海地震 震源は遠州灘～駿河湾 マグニチュード8.4 (最大震度7) 東海地方に大きな被害 太平洋岸に大津波	安政2(1855)年10月2日 安政江戸地震 震源は江戸(内陸直下型地震) マグニチュード7程度 (最大震度6強) 江戸市中に大きな被害
【参考】 平成7(1995)年1月17日 阪神・淡路大震災 マグニチュード7.3 (最大震度7)	平成23(2011)年3月11日 東日本大震災 マグニチュード9.0 (最大震度7)

No.18

瓦版 諸国大地震之図

嘉永7(1854)年11月4～5日発生
森島國男家文書 C2322



下段に日本地図を描き、上段に安政東海地震および南海地震による被害のあらましを国別に書き上げた瓦版です。大地震に伴う大津波によって、太平洋沿岸では広範囲にわたって大きな被害が生じたことが記されています。広域にまたがり、版元の不案内な土地もあったのか、一部不明瞭な地名も混じっているようです。

諸国大地震之図 **越前** (中略)、**若狭** (中略)、

夫天変ハ神力をもつてふせぐべからず、頃ハ嘉永七甲寅年十一月四日朝五ツ時、諸こく大ししん、大津なミにて、まづ**伊豆**ハ、大しま、其外しまぐことくぐゆりつづれ、かも郡、下田、ながつる、すきき、いなとり、かわづ、赤ざハ、川な辺、田方郡、いとう、うさミ、あじろ、あたミ、大加郡、石あねうら、まつざき、きミざハ郡、戸だ、井つ、三しま宿ハ、ことくくつづれ、明神やしるより左右ハやける、下田千軒の町、五丈ヨのつなミにて、人家ことくぐ流す、**相模**・**武蔵**の両こくハ、格ぐわいのこともなく、三うら、三崎のへん、津なミにて、太いにそんじ、箱根山ハ、中あれなり、**駿河**ハ、駿とう郡、ぬまづ宿、水野出羽守様御城下、ことくくつづれ、宿半より先ハやける、浜手ハつなミにて流れる、うきしま、はら宿、よしはら宿、ふじ郡、今いづミ辺、ふじ山、ほう多い山、あしたか山、いづれも大いにあれる、ふじ川がけくずれ二丁よむまる、いわぶちそんじ、いたつてつよし、かんばら宿、由井の宿やける、あべ郡、しだ郡、くらさハ、さつた峠くずれる、おきつ宿ハ、つなミにてことくく打ながし、人家牛馬の死ぼうかぞへがたし、三保の松ばら、清ミづの辺、のこらすつづれ、そんじる、江じりも同断なり、府中御城下、是又大いにそんじやける、まりこ、岡べ、しまだ、いづれも甚しくそんじる、田中、本多豊前守様御城下、是またことくくつづれる、大井川、古今の大水なり、**甲斐**ハ (中略)、**信濃**ハ (中略)、**遠江**ハ東城郡、かなや宿、日坂とうけくつれ、きく川、さよの中山、大ぢこく、小ぢこく、日坂宿大にあれる、かけ川、太田撰津守様御城下、山力郡、いわた郡、ふくろい宿、三附、池田、相良、田沼げんば頭様御りやうぶん、山な郡、横すか、西尾おきの守様御城下すべて、はいばら郡辺、一ゑん大そんじなり、天竜川大水にてつゝミきれる、浜松、井上河内守様御城下、まい坂辺、あら井宿、大津なミにて、りやうし町ながれる、人家牛馬死すこと猶しれず、**三河**ハ、二川、よし田、松平伊豆守様御城下辺、ごゆ、あかさか、かも郡、はまだ、田原御城下辺、ミた郡辺までそんじあまたなり、尤赤坂より京都までハ、宿々中あれにて、次立自由也、**尾張**路も、一ゑんそんじ所有之なり、**伊勢**ハ、安濃郡、かんべ、本多豊後守様御城下、白子、安の、津、藤堂和泉守様御城下、ことくくそんじつづれる、くもづ、月本、松坂へん、いゝの郡、宇治、あさま山へん、大いにあれ、山田、大神宮両社ともさわりなし、わたらい郡、いなき川、小またへん、宮川の尻へん、田丸御城下辺、浦々大いにあれる、殊につなミにて人家多くなれる、**志摩**ハ、とうし郡、鳥羽、はぎわだ、いつも、あく川、ミさきうら辺、是又つなミにてそんじ、**伊賀**ハ、あが郡辺一ゑん、上野御城下、なばり、あわ、やな本辺、大いにそんじ、**大和**ハ、うた郡、山べ郡辺、大の、わしや、木津、よしの、たぶみね、山上、三わ、ならかすケ社、高取御城下辺、郡山、松平甲斐守様御城下辺、いづれも大あれなり、**河内**ハ、一ゑん大かたならぬそんじにて、しき郡、ふる郡、八上郡のへん、山々ことくくづるゝ、**紀伊**ハ、むろ郡、本宮、新宮辺、くまのうら、大つなミにて人家あまた流れる、ありた、はてなし辺、高野山、なち山、汐見山、大にあれる、日高郡辺、あべ郡、若山御城下、田辺のへん、かだうら、いづれも大いにあれそんじる、**和泉**ハ、ひね郡、岸和田、岡部みのゝ守様御城下へん、大とり郡へん、惣して宿崩也、堺ハ大つなミにて、人家あまた流れるなり、**摂津**ハ、大坂町々ことくくそんじ、よく五日夕刻より天保山沖大つなミにて、天保山くすれる、あぢ川すじ、木づ川すじ、おき中にかゝりいたる大船、小船あまた入こミ、又ハ人家の家ねにあたり、ことくくそんじ、せんどう、かこのもの死亡数しれず、あぢ川ばし、玉つばし、高ばし、てつばし、水わげばし、日吉ばし、汐見ばし、幸ばし、かねやばし、大こくばし、いづれも入こミの大船をしかゝり、さんじに打こわし、大船、小船のそんじ、何ほど共かそへがたく、すべて此川すじにて死亡の者三千人ヨといふ、泉尾しん田、かん助じま、今木しん田、月正じま、木津村、なんばしん新田、なんば村、いづれ水入り家ことくくそんじる、けが、死亡の者あまたにて、目もあてられぬありさまなり、又しま郡、高つき、永井遠江守様御城下、十三、かんざき、尼がさき、松平遠江守様御城下、西のミや、池田、伊丹、兵庫辺、大にそんじ、須磨の辺、うわら郡へん、大そんじなり、又**丹波**路も、ひゞき甚つよし、**山城**ハ、京都、ふしミ、淀の辺まで、中あれなり、**近江**ハ、大つ、草つ、いしべ、水口、土山へん、是又中あれなり、**播磨**ハ (中略)、**備前**ハ (中略)、**備中**ハ (中略)、**備後**ハ (中略)、**安芸**ハ (中略)、**周防**ハ (中略)、**長門**ハ (中略)、**阿波**ハ、一ゑんあれ、なか郡、かば、白はま辺、つなミにてなかれ、しん川、小川、なるせ、かつ浦辺、徳嶋、松平阿波守様御城下やける、其外在々そんじる、**淡路**ハ、須本へん、大いにふるひ、浦々大津なミ、家あまたなかれる、**讃岐**ハ、かん川、郡、石田、田しま、八嶋郡、だんの浦、高松、松平讃岐守様御城下、そうづ山金びら辺、いづれも大にそんじ、**伊予**ハ (中略)、**土佐**、あき郡、中村、安田川、まき山、長岡郡辺、国分寺、ミね寺田、高知、松平土佐守様御城下、大平、佐川、やき山辺、ふくうら、内うら、小松崎辺、大つなミにてことくく流す、けが、死亡数しれず、**筑前**・**筑後**両国ハ、格別のそんじ無之、**豊前**ハ (中略)、**豊後**ハ、はやミ郡、まない、郡中、下原丁辺、とびら、安こくじ辺、杵筑御城下、田うら、高崎、日出御城下、大分郡、岡、中川修理大夫様御城下、木はら、よこ川へん、佐伯御城下、長おか、さかの関辺、そんじ、浦々大つなミなり、**肥後**ハ、あそ郡、かす木、白川辺、八代御城下、くま本、細川越中守様御城下、人吉辺、大にそん、海岸大つなミ、すへてひご一ゑん大そんじなり、**肥前**ハ、かんさき郡、早つ、高い、しほた、大村御城下、いさはや、佐賀、松平肥前守様御城下、其外浦々、長崎、大つなミなり、平戸御城下とも大にそんじる、**日向**ハ (中略)、**大隅**ハ (中略)、**薩摩**ハ、いさ郡辺、宮さ、つる田辺、高さ郡辺迄、そんじ所々也、真事かう代無へんの大地震なれば、図面にくわしくしるす

瓦版 諸国聞書大阪大地震二編并二大津波

嘉永 7 (1854) 年 11 月 4～5 日 発生

森島國男家文書 C2297

大坂を中心に、尼崎・奈良・丹波園部・伊勢志摩における安政東海・南海地震の被害状況（津波を含む）を報じています。

大坂では、坐摩神社の絵馬堂が大破し、四天王寺の五重塔も傾いたと記されています。

この時、大坂は震度 6 程度の揺れと推定されています。左下に描かれた、津波で押し流され折り重なった船の無残な姿が衝撃的です。

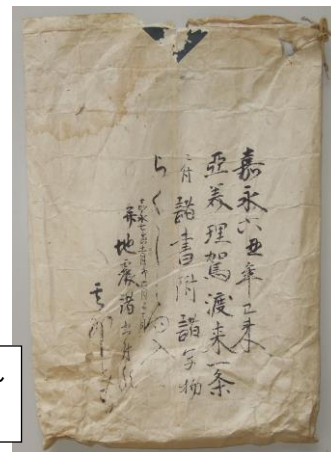


法華経塔

三重県伊賀市 安政 2 (1855) 年 6 月 建立

安政東海・南海地震の半年前、嘉永 7 (1854) 年 6 月に発生した安政伊賀地震によって、伊賀では 600 名ほどの死者が出ました。一周忌の際、犠牲者を供養するため、この塔を築き法華経が納められました。

森島家文書の瓦版などを整理して入っていた袋の一つ (C2291～C2341)



諸 聞

国 書

大阪大地震 并ニ大津波

編

二一

同五日七ツ半時より大ししにて、ざま絵馬堂大くずれ、四天王寺太こ堂くすれ、同じろとう、こつ堂前花たて石其外諸堂大そんじ、五重の塔三重目東へりやねそんじおち、南東へゆかミ、一心寺ねりへくずれ、せんばいなり石のとうろうくずれ、天満妙見宮ゑま堂くずれ、しらが町観音前せん香立くすれ、其外大そんじ、天満西寺町金ひらゑま堂大くずれ、大仁むら百姓家五六けんくずれ、うら江村安楽寺本堂大くずれ、此近辺大そんじ、安治川通大くずれ多、安治川とくろ、此近辺そんし崩レ、九条村、前だれ嶋、寺嶋、富嶋、戎しま、此辺大崩レ、亀井はし土蔵川中へくずれ込候事、紀の国ばし南へ二丁角家大くずれ、あハち町西土蔵くずれ、本町心才はし東へ入裏長家くづれ▲西よこほりせと物店そんじたる事数不知、并材木大たをれ



ざま
絵馬堂

四天王寺

尼ヶ崎
四日大地震ニ而、築地家かず式百軒ばかり、辰巳の渡し南詰宿や茶店共残こらずくづれ、市中三百軒余り崩れ、内川八尺余り高水と成、五日の夜迄三十五度のゆり、死人凡百人余、けが人数しれず

奈良

四日朝五ツ半時より大地震にて、老人も内ニ入人なし、家土蔵くづれ、清水辺西手がい通り五六軒くづれ、五日大地震ニ而、先ニのこり候家ハ又候大くづれ、并ニ郡山右同やうの大地震ニ御座候

伊勢志摩

五日くれ方より大津なミにて、四日市、桑名、かんべ、鳥羽、白子、津、此近辺大つなミにて、ながれ候人は数しれず▲志摩城下ハ、家中家敷其外つなミにて大ながれ

金屋はし

大こくばし

大坂町中毎夜く、如此ニ而、大道へ畳を引、びやうふ、あるひハ障子にてかこゐ、夜を明し、まことニく其こんさつ筆紙につくしがたし

のじくの図



堺つなミにて築地はし落、死人あり、柏わらむら家くつれ出火と成、泉州さのつなミにて大さハき、平の、八尾、此近在大そんじ、兵庫、西の宮、名田目此近へん家くつれ大そん口多し、并ニ摩耶山崩れ、其下の在所家々くつれそんじあり

十一月五日くれ方より沖雷の如くうなり、高サ老丈余り大波かさなり打来り、天保山より泉尾しん田、勘介じま、今ぎしん田、月正嶋、木津むら新田、なんば嶋、此近辺の新田大つなミにて、家根上り候人ハたすかり、其ほか舟ニのり候人、舟のり、船頭、新田の人々、死人有、凡千五百人とも式千人とも数しれず、千五百石已上、三百石已上の大ぶね道頓堀へ入込、其外上荷、茶舟、てんま下敷ニなり、くたけ候ふね数しれず▲落候橋、道とん堀日吉はし、唐金はし、幸はし、住吉はし、堀江水分はし、黒がねはし、長ほり高はし、安治川はし、ゑの子嶋亀井はし、国津はし、西よこほり金やはし、是ミなつなミのためニおち候

